

## 仏教学科 中学校一種・高等学校一種（宗教）

### 【教員養成の理念】

本学は、学則で「教育基本法及び学校教育法の求めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する」（大谷大学学則第1条）ことが大学の目的であると明記しています。

仏教精神に基づく教育・学術研究という、この理念は、本学の教員養成の理念でもあります。それゆえ、仏教学科において教員養成を行い、人間解放を目指す仏教精神に基づく宗教的情操を具えた教員を養成することは、本学における教員養成を実現するためにも不可欠であると考えています。

周知のように、日本では私立学校が少なからぬ割合を占め、「私立学校は我が国の学校教育の発展に大きく貢献しています」（文部科学省「私立学校の振興」([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shinkou/main5\\_a3.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/main5_a3.htm)))。特に、高等学校では、全4,872校中1,318校(27.1%)、生徒数では全3,334,019人中1,039,021人(31.2%)もの割合を、私立学校がになっています。義務教育の中学校でも、全10,476校中73校(0.7%)、生徒数では3,504,334人中245,800人(7.0%)が私立学校で学んでいます（平成26年度学校基本調査より）。これら私立学校の少なからぬ割合が、その設置理念に宗教的情操の涵養を異口同音に掲げています。宗教科免許を持つ教員への社会的要請は依然高いままです。また、本学の設立母体である真宗大谷派の関係学校に限っても、高等学校で18校、中学校で5校が設置されています。これら学校に対して、真宗大谷派の見地からの宗教的素養をもった宗教科教員が継続的に養成され続けていることは言うまでもありません。

本学科は、既に相当な期間にわたって宗教科教員を養成し、卒業生は数多くの教育現場で活躍してくれています。今後とも宗教科教員養成を通じて社会の要請に応え続けていきたいと考えています。

### 【理念を実現するための教員養成の構想】

現代においては、新たな科学技術の急速な発達・普及や、人々の価値観の変容に伴い、社会が日々大きく変化してはいますが、そうしたなかで、多くの人がさまざまな人間関係の問題に悩まされています。子どもたちもそうした問題とは無縁ではなく、陰湿化・複雑化しているいじめの問題を始めとして、色々なところの問題に直面している子どもは少なからず存在するとされています。このため、教員には、子どもの声に真摯に耳を傾けるとともに、さまざまな問題に柔軟に対応し、的確な教育的配慮を行い、子どものところをのびやかに育む力が求められています。

本学では、第三代学長佐々木月樵が示した本学の目標のうち、「三モットー」（本務遂

行、相互敬愛、人格純真)に基づき、学部においては全学共通科目として、見学の精神を伝える「人間学 I」「人間学 II」を設け、全学生に対して「宗教的人格の陶冶」を行っています。

さらに文学部仏教学科では、「宗教」の教員免許の取得を志す学生に対して、「宗教学概論」や「宗教史概論」「仏教学概論」といった科目を置き、宗教に関する知識を育成するだけでなく、本学独自の科目として「部落史論」「反カースト運動論」「障害者・病者と共に生きる」「非戦の系譜」などを開講し、仏教的な人間観に基づく、高い人権意識と宗教的情操を有した教員の育成を目指しております。

また仏教学科では、こうした教職課程におけるカリキュラム的配慮に加え、2013年に行った学科のコース改変において新たに「現代と仏教コース」を設置しました。それにより本学科での学びを通して、仏教的な見識や人間観を身に付けるとともに、それらを現代社会のさまざまな具体的問題に対してどのように適応し、問題の解決を導き出していくかという実践的な知見を養えるような工夫がなされております。

### **【学科として養成したい教員像】**

本学は、親鸞聖人の仏教精神を大学の教育理念に据え、初代学長清沢満之・第三代学長佐々木月焦による仏教精神の近代化の試みを経て、現代にもその建学の精神を生かすために、これまでも積極的に教員養成に取り組んできました。一方で、生徒を取り巻く現代の難しい環境を顧みると、仏教精神に基づく宗教的情操とともに生徒のニーズに関する教育的配慮や支援に関する知見を備えた教員養成の必要性を強く感じます。

家庭に次いで生徒の生活の場である学校も、いじめ・不登校・学級崩壊・学力低下などの多くの問題を抱えており、生徒たちは絶えず緊張感のある生活を強いられている場合も少なくありません。このような状況のもと、生徒の心に寄り添いながら教育できるような、相互信頼関係を構築することのできる教員を養成することが強く要請されています。

こうした社会的要請に対して、仏教精神に基づく宗教的情操を培う人間学や人間関係が正しく理解できる仏教学を学ぶことによって、社会が求める人間性豊で、一人一人の生徒の教育ニーズに細やかに対応できる教員を世に送り出したいと考えています。